



Title	韓国の大学におけるコンピテンシーに基づいた教育体制の構築
Author(s)	鄭, 漢模
Citation	高等教育ジャーナル : 高等教育と生涯学習, 32, 89-98
Issue Date	2025-03
DOI	https://doi.org/10.14943/J.HighEdu.32.89
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/94547
Type	departmental bulletin paper
File Information	HighEdu.32_p89-98.pdf



Establishment of Competency-Based University Education System in Korea

Hanmo Jeong*

Institute for the Advancement of Higher Education, Hokkaido University

韓国の大学におけるコンピテンシーに基づいた教育体制の構築

鄭 漢 模**

北海道大学高等教育推進機構

Abstract — The adoption of competency-based education in Korean universities began in 1997, prompted by a worsening unemployment crisis among graduates following the currency crisis. This situation underscored the need for reforms in university education. In response, the government developed and published guidelines, along with the Korean Collegiate Essential. Skills Assessment. It also integrated competency-based education into external quality assurance frameworks to encourage universities to espouse this approach. Each university devised its own implementation process and promoted these initiatives. This report examines the Korean experience, highlighting the government's efforts to advance competency-based education, providing specific examples from various universities, and analyzing the significance and associated challenges.

(Accepted on 4 February 2025)

1. はじめに

予測不可能な時代と呼ばれる現代社会において、大学教育に対して変化を求める声が高まっている。日本では、「学士課程教育の構築に向けて（答申）」（中央教育審議会, 2008）における汎用的能力の育成、「教学マネジメント指針」（中央教育審議会大学分科会, 2020）における学修者本位の大学教育などを通じて、学生が身につけられることが期待される能力の明確化と、その能力を学生が身につけたのかを示

すという大学側に対する説明責任が強調されている。一方、隣国である韓国においても、日本と同様の変化が見られる。韓国では、知識の獲得を中心に編成されていたカリキュラムを、コンピテンシーの獲得を中心に再編し教育を行う「力量基盤教育」（以下、力量基盤教育）への転換が取り組まれてきた。こうした変化は日本と同様に、大学で身につけられる能力を明確化し、大学側に説明責任を問うというものである。こうした取組は、韓国政府（以下、政府）による外部質保証の評価項目に含まれ、大学の

*) Correspondence: Institute for the Advancement of Higher Education, Hokkaido University, Sapporo 060-0817, Japan
E-mail: jeonghanmo@high.hokudai.ac.jp

***) 連絡先：060-0817 札幌市北区北 17 条西 8 丁目 北海道大学高等教育推進機構

表 1 各大学に関する情報

大学名	設立年度	設置・運営主体	学科数	学生数
国立 C 大学	1951	国立	104	15,000～20,000
私立 K 大学	1954	私立	97	30,000～35,000
私立 KG 大学	1947	私立	88	15,000～20,000

(Ministry of Education, Korean Council for University Education (2024) から鄭が抜粋し和訳)

質保証においても使われている。本報告の目的は、こうした韓国の事例に焦点を当て、力量基盤教育に関する政府の取組と、大学における具体的な事例を紹介し、その意義と課題を検討することである。

なお、大学によって開示の程度と情報量の差があるため、積極的に情報を開示している大学の事例を取り上げた。各事例は、同じ大学を設置・運営する主体、同規模間であれば一般的な事例として理解することができるが、大学全体を一般化できるものではないことを断っておきたい。上記の表 1 は、ここで示す各大学の情報について簡単にまとめたものである。

2. 力量基盤教育の導入と定義

2.1 背景

韓国における力量基盤教育は、OECD が定めたキー・コンピテンシーと深い関係がある。1990 年代、韓国では大学の設立に関する規制の緩和と、大学進学に対する社会のニーズにあいまって、大学進学率が 70% を超えており、すでにユニバーサル段階を過ぎていた。しかし、1997 年の通貨危機により、大学を卒業しても就職できない状況が続くと、大学の役割として、生産性の高い人材を養成し、社会の成長を促すことで経済発展の土台を提供することが求められた (Son *et al.*, 2021)。一方、OECD では、職務に関するキー・コンピテンシーを明らかにすることを目的とする Definition and Selection of Competencies (DeSeCo) プロジェクトが進められていた (OECD, 2005)。韓国の力量基盤教育は、このプロジェクトが示したキー・コンピテンシーを参照し、力量という概念として取り入れられたものと考えられる (Son *et al.*, 2021)。

2.2 定義

韓国において「力量」(以下、力量)の使い方は一般名詞に近い。特に政府や企業による人事においてよく用いられる用語で、「優秀な成果を上げた者の行動上の特性」、「個人と組織の目標達成のための核心となる、観察、測定可能な行動として表れる内在的な特性」を意味する (Ministry of Personnel Management, 2016)。力量基盤教育に関して政府は別途定義づけを行っておらず、研究によって「与えられた職務を遂行するための個人が有する認知的、情緒的レベルの能力を包括する総体的な概念」などと定義を示す場合がある (Son *et al.*, 2021)。政府は、こうした力量を、「専門力量」(以下、専門力量)、「核心力量」(以下、核心力量)に分けている (Ministry of Education & Korean Educational Development Institute, 2020)。専門力量とは、各部局の関連分野において要求される職務、課業、役割を遂行するにあたって必要とされる知識、スキル、態度を含む、複合的かつ総合的な能力を意味する。そして核心力量とは、各大学がその大学の特性に基づき設定したもので、高等教育段階において学生に要求される一般的力量を意味する。

韓国において、大学が実施する教育は、専門教育、教養教育、非教科教育に大別される。各力量の中でも専門力量は専門教育、核心力量は教養教育、非教科教育に対応する。各々、専門教育とは専門分野における専門的知識を、教養教育とは、一般的で普遍的な力量を育むための教育を意味する。非教科教育は、単位が与えられないが、学生の自己啓発のための支援及び指導を定期的に行う教育活動を意味する。例えば、スタディスキル、進路相談、心理相談、キャリア支援、創業支援などに関する講座などがこれに当てはまる。

下記の表 2 は、国立 C 大学における力量の例であ

表 2 国立 C 大学における力量の例 (Chungbuk National. University, 2023)

力量名*	意味
Creativity (創意性)	新しい問題を発見し、問題に対する解決方法を探索し、実行可能で最適な解決方法を考案することができる力量 (創意的問題解決力)
Humanism (ヒューマニズム)	組織及び社会の一員として健康な価値観と倫理意識を備え、人間を尊重し、法と制度の価値を理解し深く考え表現する能力
Activeness (能動性)	自身の未来の生き方に対するビジョンと召命に照らして目標を設定し、行動する計画を立て、様々な状況において目標を達成するための行動を調節し、持続できる能力
Neighbor Minded (共同体)	他人と適切な相互作用しつつ、他人と社会と共に生きていける力量
Global. (国際性)	世界を構成する一構成員として、世界の様々な文化、政治、経済などに対する関心と深い理解に基づき、文化的に異なる背景を持つ個人及び集団と適切かつ効果的なコミュニケーション及び交流ができる力量
Expertise (専門性)	専門領域の高度化した知識及び技術を通して新しい専門知識を創出し、地域社会及び国の発展を先導することのできる専門家としての力量

る。各力量の頭文字をとると「CHANGE」になるように作成されている。中でも「CHANG」に該当する力量は核心力量、「E」に該当する力量は専門力量に該当する。これは国立 C 大学全体の力量であり、各部局には各部局の力量が別途存在する。

2.3 政府による外部質保証

韓国では、2009 年以降において政府による外部質保証による財政的支援の配分が強化された。そのため、各大学は政府からの要求に応えなければならない立場に置かれた。政府による外部質保証による影響は各大学における教育、研究、経営などの全般に渡り、中でも教養教育分野に対する影響も大きかった。こうした外部質保証の例としては、競争的資金と各大学に対する評価（以下、大学評価）があげられる。

まず、競争的資金は、政府が内容、目標、実施期間、予算額などを定めたうえ公募をかける形で行われる。競争的資金において初めて力量基盤教育に関する内容が含まれたのは、2010 年から 2016 年までに実施された「学部教育先進化先導大学支援事業」(Advancement of College Education ; 以下, ACE) である。政府は ACE を通じて学部教育の質向上を目的に力量基盤教育の導入を評価項目に含めた。2010 年から 2016 年の間に 32 校が選定された。その間の予算は約 4 千億ウォンにも至る。力量基盤教育はその後も、2017 年から 2020 年までに ACE を継続されるために実施された ACE+, 2014 年から 2019 年までに実施された「大学特性化事業」(university for

表 3 大学評価における配点 (2021 年度実施)

評価項目	配点
発展計画の成果	4 点
教育環境	20 点
大学運営の責務性	9 点
授業及び教育課程の運営	29 点 (うち力量基盤教育に関わる「教育課程運営及び改善」20 点)
学生支援	13 点
教育成果	25 点

Creative Korea ; CK) において評価項目に含まれた。そして、2024 年現在においても、2012 年から実施中の「産学協力先導大学育成事業」(Leaders in INdustry-university Cooperation ; LINC), 2019 年から 2023 年までに実施された「大学革新支援事業」の評価項目の中にも含まれた。

もう一つの外部質保証として、大学評価をあげることができる。韓国では高等教育法第 2 条において高等教育機関の種類が定まっており、同法に該当するすべての大学は必ず政府による評価を受けることになっている。したがって、競争的資金が、主にそれに応募する各大学に影響を及ぼしているとすれば、大学評価はすべての大学に対して影響力を有する。評価の基準を下回った大学は、財政的支援の削減、在学生の教育ローンに対する制限、定員削減のペナルティが課される。こうした大学評価は、2010 年に初めて導入されたが、力量基盤教育が評価項目に含まれるようになったのは、2021 年からである。このことによりほぼすべての大学において力量基盤教育の導入及び実施が義務付けられた。上記の表 3 に示すように、各評価項目の中でも力量基盤教育に

関する評価項目は各項目の中でも配点が最も高い。

3. 力量基盤教育の事例： 政府による取組

3.1 導入プロセスに関するガイドライン

政府は、各大学における力量基盤教育の導入を支援すべく、導入プロセスに関するガイドラインを作成し公開した。下記の図1は、そのガイドラインである。

真っ先に目に入るのは最も上にある矢印の下に「リソースの採掘及び加工」が4回繰り返される点である。ここでいう「リソース」とは、その大学が教えていることを指す。「採掘」及び「加工」は、各々それらを浮き彫りにし、力量として捉えていくということを意味する。このガイドラインでは、力量基盤教育を推進していくなかで、「リソースの採掘及び加工」は何度も繰り返すものとされている。その下には、具体的な活動が示されている。まず、大学成果委員会を構成すると同時に、全学的に成果を管理する必要性を認識し、さらにそういった認識を共有することから始まる（「大学成果管理委員会の構

成」、「成果管理をする必要性の認識及び共有」）。その後、力量基盤教育を作っていく分科ごとに目標を定める作業を行う（「分科ごと KPIs の設定」）。次の段階では、この目標を中心に力量を作成していく（「力量の作成」）。ここまでの力量基盤教育の形を作る作業にあたる。その後には、力量基盤教育の質保証に関する段階に入る。「総合成果管理システムの構築」、「学生力量総合管理システムの構築」が行われる。この2つの段階は、各々大学全体としての質保証、個々人の学生に対する質保証に関するシステムを意味する。報告書の評価では省かれているが、ここでフィードバックが行われることから、この2つの段階ではすでに力量基盤教育が実施されていることが前提とされていることと思われる。この2つの段階の次は、「成果管理結果フィードバック」である。この段階では力量基盤教育により得られた成果及びフィードバックを共有する段階である。そして、最後の「成果管理結果の発信」では、大学が説明責任を果たすべく、大学のホームページなどに力量基盤教育の成果を掲載することなどが行われる。

3.2 大学生核心力量診断システム

大学生核心力量診断システム（Korea Collegiate



図1 導入プロセスに関するガイドライン

Essential Skills Assessment；以下、K-CESA）は、韓国職業能力開発院¹により開発され、2009年に公開された大学生の力量を測定するためのテストである。K-CESAは、各授業科目に対する測定というよりは、大学教育全体において育まれた力量を測定するために開発された。K-CESAを通して測定できる力量は大きく「認知的力量」と「対人関係力量」に分けられる。「認知的力量」には、①意思疎通力量、②資源・情報・技術の活用力量、③総合的思考力、④グローバル力量が、「対人関係力量」には、⑤自己管理力量、⑥対人関係力量がある（Ministry of Education & Korea Research Institute for Professional Education and Training, 2023）。K-CESAは、国家レベルで力量の定義づけと測定の実施に関する見本を示し、各大学に力量基盤教育に関する意識を芽生えさせた（Korean Educational Development Institute, 2022）。また、それ自体が力量の測定方法に関する具体的なガイドラインとして各大学が参考にした、または、K-CESA自体を導入した。

左側の図2は、私立S大学におけるK-CESAの結果を表したレーダーチャートである（Lee, 2022）。同大学では、K-CESAの結果を大学の新聞に掲載し学生に共有したほど、K-CESAの導入に積極的に取り組んだ。K-CESAは2021年9月6日から30日まで実施された。回答者数は137人である。レーダーチャートの中の実線は同大学において「優秀及び卓越」判定を受けた学生の割合、破線は「不十分」判定を受けた学生の割合を示す。各判定は、全国の

大学におけるすべての回答者との比較を通して下される。各々、「卓越」は上位10%以内、「優秀」は10～30%、「普通」は30～70%、「不十分」は70～100%に回答者が含まれていることを意味する。例えば、同大学の「グローバル力量」の場合、「優秀」または「卓越」の判定を受けた学生の割合が26.8%だったことに對し、「不十分」は31.4%を示し、むしろ多かった。このことはグローバル力量の育成に関する教育に、何らかしらの改善が求められている可能性があることを意味する。一方で、各学生にとってはその時点での自身の力量を測定できるものの、回答するメリットが少ないことも事実である。そのため、商品、学内サービスで使用可能なマイレージの贈呈などを行った大学もある。

4. 力量基盤教育の事例： 各大学における事例

4.1 学科における力量基盤教育の導入プロセス （私立K大学産業デザイン学科の事例） （Keimyung University, 2020）

下記の表4は、私立K大学産業デザイン学科（以下、私立K大学）において実際に用いられた導入プロセスである。同大学の事例を通じて導入プロセスに加え、力量基盤教育を実施した後の改善策、力量の内容について把握することができる。

実際の大学における導入プロセスは、本事例において「大学成果管理委員会の構成」、「成果管理の必要性の認識及び共有」に該当する段階が省かれている点異なる。しかし、大学の教育に関する分析を行い（第1段階、第2段階）、分析の結果に基づいて目標を定めよう（第3段階）、力量を見出している点まで（第4段階）、大体同じであることが分かる。その後、第5段階においては実際力量基盤教育を実施したことを入れている点は、ガイドラインとは異なる点である。さらに、ガイドラインにはフィードバックが2つの段階として独立していたが、私立K大学の場合、第5段階にフィードバックを含めている点もまた異なる。その後の第6段階、及び、第7段階は、力量基盤教育を実施した結果やフィード

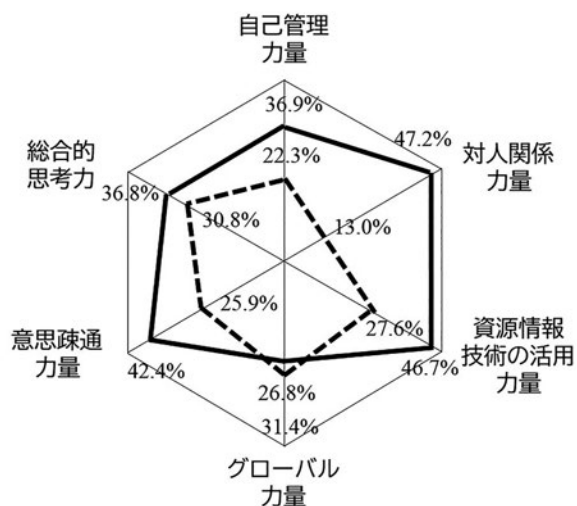


図2 K-CESAの結果を示すレーダーチャート

表4 私立 K 大学における力量基盤教育の導入に関するプロセス

段階	内容
第1段階 (環境分析)	外部環境分析（産業の動向、地域の動向など）、内部環境分析（学科の現状、学生の現状、教員の現状など）
第2段階 (ニーズ分析)	企業、在学生、卒業生からのニーズを分析、SWOT 分析
第3段階 (教育目標の設定)	環境分析（1 段階）及びニーズ分析（2 段階）に基づき人材養成類型を設定、大学の発展計画と人材像などを反映した教育目標の設定、現場の専門家の選定及び専門教育課程開発委員会の構成
第4段階 (専門力量の導出)	大学の発展計画及び学科の教育目標との関連性を考慮した専門力量の設定、学科別人材養成類型及び教育目標に基づいた職種別職務の定義づけ、専門力量の導出及び専門能力別知識・技術・態度の導出
第5段階 (専門教育課程の運営)	教科目及び専門力量間の関連性を確かめ、専門力量別教科目を構成、教育課程の運営及びフィードバック
第6段階 (教育課程運営計画の作成)	専門力量教育課程の運営計画の作成
第7段階 (教科目プロフィールの作成)	専門力量別に各教科科目において求められる知識、技術、態度などをまとめ、教科目プロフィールを作成、シラバスに入力

バックに基づき、運営計画、教科目シラバスを見直す作業である。本報告書には示されなかったが、その結果を持って第5段階に戻ってさらに実施を繰り返すことと思われる。第5段階が終了した時点で改善された点として右側の表5があげられる (Keimyung University, 2020)。

なお、第3段階に示された「人材養成類型」をより詳しく見ることで、私立 K 大学が取り上げた力量の詳細が分かる。本報告書において「人材養成類型」の定義は示されていないが、具体的な職業に基づいた人材像であり、また、同学科による力量基盤教育を通じて就ける職業の一例として理解することができる。上記の表6は、私立 K 大学が公開している人材養成類型の一部を抜粋した事例である。

私立 K 大学は、「人材養成類型」として「産業デザイン専門家」の一つを示し、その下に職務として「製品デザイン」、「製品デザイン戦略及びプロジェクト企画」、「サービスデザイン」、「自動車デザイン」、「家具デザイン」を置いている。そして各職務には定義と力量に関する説明がある。各職務に関する力量は、観察能力、問題解決、スケッチ能力、意思疎通、設計能力、パソコン活用能力、道具の活用、デザインに関する理解、空間認知能力から構成されており、違う職務間でも多くが重複する。

表5 私立 K 大学の力量基盤教育における改善事項

—	企業、卒業生、在学生からのニーズを反映し、現場での実務教育を強化
—	実務中心の教育を強化し、専門力量の中でも道具の活用、協働力、デザイン理解の向上を図る。
—	各教科目の運営を強化（エコデザイン、デザイン起業、実習関連）
—	新しい教科目の追加（専門力量と専門職務との関連性を考慮、最近3年間6つを追加）
—	融合、起業、英語講義、融複合に関する新しい教科目を追加
—	今後、融複合専門教育のための教科目の運営の拡大する予定（2021年から）
—	専門力量及び専門職務との関連性を考慮し、教科目10個を廃止

4.2 力量基盤教育における成績評価（私立 KG 大学産業経営工学科の事例）

力量基盤教育における成績評価では、直接評価、間接評価が同時に行われる。直接評価の場合、力量基盤教育のための教科目を別途新設しそこで評価するか、卒業試験、卒業論文、ポートフォリオ、プロジェクトなどを使用する。間接評価の場合、卒業予定者を対象にした自己評価、上述した K-CESA を使用する。下記の表7は、私立 KG 大学産業経営工学科（以下、私立 KG 大学）のある授業における直接評価の配点表である (Kang et al, 2019)。同授業ではシラバスに力量を記載し、記載した力量に基づいた評価を行っている。

表 6 各職務による専門力量（人材養成類型：「産業デザイン専門家」）

職務名	職務の定義	専門力量
製品デザイン	製品デザイナーは、針から航空機に至るまで、我々の日常生活に必要な各種製品をデザインする。デザインを依頼されると、マーケット調査を通して消費者の好み、ニーズ、流行などを分析する。（省略）	観察能力、問題解決、スケッチ能力、意思疎通、設計能力、パソコン活用能力、道具の活用、デザインに関する理解
製品デザイン戦略及びプロジェクト企画	（省略）	問題解決、意思疎通、パソコン活用能力、デザインに関する理解
サービスデザイン	（省略）	観察能力、問題解決、意思疎通、パソコン活用能力、デザインに関する理解
自動車デザイン	（省略）	観察能力、スケッチ能力、設計能力、問題解決、意思疎通、道具の活用、デザインに関する理解
家具デザイン	（省略）	空間認知能力、設計能力、問題解決、意思疎通、道具の活用、デザインに関する理解

表 7 力量基盤教育を取り入れた授業における成績評価の配点表

評価ツール	細部核心力量			
	基礎知識応用	資料分析能力	問題解決能力	道具活用能力
試験	中間テスト （以下、質問 項目：1～6）	40 点		
	(7, 8) (9～11) (12)		20 点	
	期末テスト (1, 8～10) (2, 5, 7) (3, 6)	40 点	30 点	10 点
			20 点	
小テスト	1 回目	18 点		
	2 回目	24 点		
	3 回目		12 点	
	4 回目			6 点
合計	104 点	78 点	52 点	26 点
配点割合	40%	30%	20%	10%
目標反映率	40%	30%	20%	10%

4.3 教科目認証制度（国立 C 大学消費者学科の事例）

教科目認証制度とは、大学の執行部が定めた全学組織、または、委員会などが大学で提供されている各コースに対して力量基盤教育に適しているかを判断し、場合認証を行う制度である。特にそれまでに提供されてきた専門教育を、力量基盤教育に変えていくために導入された。専門教育における力量基盤教育の実施は、上述した私立 K 大学事例から分かるように、時間と手間、費用がかかる。そのため、大学によっては教科目認証制度を取り入れ、学内における力量基盤教育の導入を促している場合もある。大学によっては学部が認証を受けた場合、財政的支援が与えられるところもある。

国立 C 大学消費者学科（以下、国立 C 大学）の場合、2013 年に初めて教科目認証制度が導入され、2021 年までに累計 100 個の部局が認証、または、再認証を受けた。認証には有効期限が設けられており、審査結果によって 2 年、または、4 年が与えられる。教科目認証制度を受けるまでの流れは次の通りである。まず、各学科が教科目認証制度に参加すると、3,500 万ウォンの支援金が支給される。各学科はその支援金を、教育課程委員会、学生を対象にする力量基盤教育プログラム、消耗品の購入などで使用することができる。そして、大学側は部局が取り上げている力量が教育課程に十分に反映されているか確認を行う。下記の表 8 は、国立 C 大学の各専門科目に該当する力量と、各力量の重みを示したものである。ある学科が大学側に提出するために作成さ

表 8 各専門科目に該当する力量及び各力量の重み付け

学年	専門教科目	創意性	ヒューマニズム	能動性	共同体	グローバル	専門性	計
1	消費者額概論		20%	10%			70%	100%
2	… (省略)	10%	10%	10%	5%	5%	60%	100%
3	消費者情報管理論	20%		20%		10%	50%	100%
4	… (省略)	30%		20%			50%	100%
学年	非教科領域							
1	専門メンタリング		20%	10%			70%	100%
2	… (省略)	10%		10%	10%	10%	50%	100%
平均		17.50%	16.67%	13.33%	7.50%	8.33%	58.33%	100%

れた。一度認証を受けた学科には次期の実施に向けてコンサルティングなどの支援が行われる。

5. 力量基盤教育の課題

Korean Educational Development Institute (2022) は、力量基盤教育の課題として、次の5つをあげた。第一に、教科目及び学位プログラムにおける力量の紐づけである。大学によっては各教科目における力量は充実しているものの、最終的に学位プログラムの力量との紐づけは不十分である場合がある。第二に、核心力量に比べて専門力量の定着が遅れている点である。教養科目、非教科科目を通じて身につける核心力量に比べて、専門科目を通じて身につける専門力量の定着はまだ進んでいない。第三に、マネジメント人材の確保である。力量基盤教育を担当する人材の確保が不十分である。数も不足し、雇用も不安定なことが多いためである。第四に、力量基盤教育の重要性に関する認識の共有である。力量基盤教育の重要性に関して、執行部に比べて教員の間ではまだ認識が弱い傾向がある。最後に、政府の役割である。政府は今以上に、力量基盤教育に関する評価を財政的支援に反映する必要がある。また、力量基盤教育の効果に関してデータに基づいたエビデンスを示す必要がある。

その他にも、力量基盤教育が目指す目標が、教養教育の趣旨とはかみ合わないという指摘がある (Son et al., 2021)。つまり、力量基盤教育における目標設定、管理体制の構築及び運営は、心理学、経済学、経営学における「評価」に基づいたものであり、自我実現、倫理観の醸成、想像力の向上など、教養教育における目的意識とは相いれないという指摘で

ある。また、力量とは、教育分野でなく、業務の遂行に求められるスキルなどを明らかにしたい職業技術分野向けに考案された概念であり、教育分野における定義が不確かなままであるという指摘も存在する (Yoo & Kang, 2019)。上記の2つの指摘は、韓国における力量基盤教育がOECDによるDeSeCoから始まったことや、力量基盤教育が職業技術分野向けのNCS (国家職務能力標準) に類似する点と関係がある (Human Resources Development Service of Korea, 2023)。

6. まとめと考察

韓国の大学における力量基盤教育の導入は、1997年にあった通貨危機を契機に、大学卒業生の失業問題が悪化すると、大学教育の改革を求めるニーズが高まったことで始まった。政府は、ガイドラインや大学生核心力量診断システムを作成し公開するほか、外部質保証に力量基盤教育に関する項目を設けることで、各大学における力量基盤教育の導入を促した。各大学においても、大学ならではの導入プロセスを作成し導入を進めるほか、力量基盤教育を導入する部局、力量基盤教育に関するテストを受けた学生にアドバンテージを与えるなど、導入を積極的に推進してきた。

こうした韓国における力量基盤教育の意義の一つは、政府が力量基盤教育を大学の財政的支援にも関わる評価に含めてまで積極的に推進している点、にもかかわらず認識調査で見られるように各大学においては力量基盤教育に対する重要性を認識している点である。このことは、力量基盤教育に関して、政府が各大学に強引に押し付けているわけではなく、

大学側からも大学の教育を改善していかなければならないという強い問題意識を持っていることを表す。各大学がこうした問題意識を持っている理由としては、日本に比べても人口減少が急激に進んでおり、定員を充足するためにでも必死に教育改善に取り組む必要があったためだと思われる。また、力量基盤教育に関する支援体制が充実している点も一つの特徴である。政府は、Korean Educational Development Institute, 韓国教養基礎教育院など、関係する機関と連携し、導入事例、成果を報告し、多数のセミナーを開催してきた。大学内部の支援も充実している。大学にもよるが、力量基盤教育を導入する部局に対しては財政的支援が行われたり、コンサルティングを行ったりしている点があげられる。但し、支援体制が充実している点に関しては、韓国では、力量基盤教育が政府による外部質保証に含まれており、各大学にとっては導入する以外に選択肢がない点を考慮する必要がある。

一方で、課題としては、力量基盤教育の必要性についてはまだ十分な共感が得られていない可能性があげられる。このことは、Korean Educational Development Institute (2022) があげた課題の中に、「力量基盤教育の効果に関してデータに基づいたエビデンスを示す必要」が指摘されている点とも関わっていると思われる。こうしたことが起こっている原因の一つとして、学問分野によっては力量基盤教育と相いれない可能性がある点があげられる (Son *et al.*, 2021; Yoo & Kang, 2019)。

韓国において政府による大学評価に力量基盤教育に関する項目が追加されてから約 14 年が経つ。課題を解決するまで時間がかかるかもしれないが、ほぼすべての大学に対し、力量基盤教育という比較的確なゴールを与え、これからの社会において必要とされる力量を発見し、大学教育の中に各力量の獲得を組み込む試みを持続させている。こうした韓国の事例は、コンピテンシーに基づいた大学教育の試みが高等教育をいかに変化させるかを明らかにするうえでも注目に値する。

謝辞

本報告の作成にあたり、韓国 威徳大学校 金仁暎先生から、力量基盤教育に関して韓国の状況に加え、虚心坦懐なご意見を承りました。ここに感謝の意を表します。本当にありがとうございました。

注

- 1 同院は Ministry of Education, Science and Technology (注：現在の Ministry of Education) の支援を受け、大学生に対する職業基礎能力診断システムの開発を進めてきた政府系シンクタンクである (石川, 2012)

文献

- Chungbuk National University (2023). *Chungbuk Integrated Extracurricular Administrative sysTem*. Retrieved November 7, 2023 from <https://cieat.cbnu.ac.kr/educationGoal/a/m/Intro.do%0A>
- 中央教育審議会 (2008). 学士課程教育の構築に向けて (答申)
- 中央教育審議会大学分科会 (2020). 教学マネジメント指針
- Human Resources Development Service of Korea (2023). *What is NCS (National Competency Standards)?* Retrieved November 7, 2023 from <https://www.ncs.go.kr/th01/TH-102-001-01.scd0> (한국산업인력공단 (2023). NCS (국가직무능력표준) 란?)
- 石川 裕之 (2012). 韓国における高等教育の質保証システムと学習成果アセスメントのインパクト 深堀 聰子 (編) 学習成果アセスメントのインパクトに関する総合的研究 (pp.43-60)
- Kang, J., Lee, B., & Kwon, S. A. (2019). A Exploratory of Design Strategies for Competency-Based Curriculum of the Educational. Objective-Curriculum-Assessment Consortium in Higher Education. *Journal of Educational Technology*, 35 (2), 527-549.

- Keimyung University Major in Urban Planning (2020). *Major Competency-Based Major Education Curriculum Improvement Report*. Retrieved November 7, 2023 from <https://www.kmu.ac.kr/upload/download/02/report/13/3.pdf> (계명대학교 도시계획학 전공 (2020). 전공능력기반 전공교육과정 개선보고서)
- Korean Educational Development Institute (2022). *A study to explore evaluation measures of competency-based curriculum and educational outcomes of higher education institutions*.
- Lee, D. (2022). Results of the 2021 K-CESA Announced. *SSUNews*. Retrived November 7, 2023 from <http://www.ssunews.net/news/articleView.html?idxno=9338> (이다혜 (2022). 2021 학년도 K-CESA 결과 발표돼. 송대시보)
- Ministry of Education & Korean Council for University Education (2024). *Higher Education in Korea*. Retrieved December 12, 2024 from <https://www.academyinfo.go.kr/> (교육부, & 한국대학교육협의회 (2024). 대학알리미)
- Ministry of Education & Korean Educational Development Institute (2020). *Guidebook for University Basic Competency Diagnosis Explanation Session Materials*. (교육부, & 한국교육개발원 (2020). 대학 기본역량 진단 편람 설명회 자료집)
- Ministry of Education & Korea Research Institute for Professional Education and Training (2023). *What is the KCESA College Students' Core Competency Diagnosis?* Retrieved November 7, 2023 from <https://www.kcesa.re.kr/> (교육부, & 한국직업능력연구원 (2020). KCESA 대학생 핵심역량 진단이란?)
- Ministry of Personnel Management (2016). *General Definition of Competency*. Retrieved December12, 2024 from <https://www.nhi.go.kr/cad/frontAbi/cacAbi.do> (인사혁신처 (2016). 역량 의 일반적 정의)
- OECD (2005). *The Definition and Selection of Key Competencies*.
- Son, S., Kim, I., Song, H., Lee, J., & Choi, Y. (2021). Competency-Based Education and Core Competencies in Higher Education. *The Korean Association of General Education*, 15(1), 11–30.
- Yoo, I., & Kang, H. (2019). Criticism of the Competency-Based Curriculum and Instruction of University Education in Korea: Focusing on D university. *The Convergent Research Society Among Humanities, Sociology, Science, and Technology*, 9 (7), 209–216.